



2017 小学部だより

# ねむの木

相模女子大学小学部  
〒252-0383 相模原市南区文京 2-1-1

2017年度 7月号



## 七夕 (たなばた)

校長 竹下 昌之

「たなばたさま」

ささの葉さらさら のきばにゆれる お星さまきらきら ぎんぎん砂子  
五しきのたんざく わたしがかいた お星さまきらきら 空からみてる

作詞：権藤はなよ・林 柳波

作曲：下総皖一(大正時代、私立成城小学校音楽教師・戦後、東京芸術大学学長)

※ 昭和16年『うたのほん(下)』所収

中国の伝説に、つぎのようなお話があります。

天帝(中国の皇帝)の娘・織女(おりひめ・こと座の一等星ベガ)は、毎日機織りにはげみ、自分の身だしなみも忘れるほどでした。

天帝はこの美しい娘をふびんに思い、りっぱな婿(むこ)を探していました。

ある日、天帝は天の川の向こう岸で黒牛の背に乗って笛を吹いている牽牛(けんぎゅう=ひこぼし・わし座の一等星アルタイル)と出会い、彼を試そうとして、牛のしっぽをポンと一突きしました。

びっくりした牛は、大あばれして天の川のふちまで突進。しかし、牽牛は少しもあわてず笛を吹き続け、ふちの手前で牛の首を一つたたきました。すると、不思議なことに、牛はくるっと後ろ向きになり、何ごともなかったように草を食べはじめました。それを見た天帝はとても気に入り、牽牛と織女(しょくじょ)を結婚させました。

ところが、織女はうれしさの余りルンルン気分の新婚生活。夫とたわむれてばかりで機を少しも織りません。天帝は怒って、織女を天の川の西に、牽牛を天の川の東に別れて住まわせました。

そして、年に一度、七夕の日にだけ会うことを許したのです。この日は、カササギ(月)が天の川に橋をかけて二人を渡します。だが、この日に雨が降ると川の水があふれて渡れなくなり、もう一年、待たなければなりません……。

このようなお話を聞くと「七夕(たなばた)」は、中国から伝わった“星祭り”とだと思ってしまう人もいるのではないのでしょうか。しかし、実は古くからある日本独自の行事なのです。

つまり、「たなばた」の語源は、

① 棚の構え(棚飾り)のある機織機(はたおりき)

② 機を織る女を意味する棚機津女(たなばたつめ)の二説があり、

また、旧暦の7月6日の夜は棚機津女が神を祭る日(「神迎えの日」・笹竹)で、その翌日7月7日は日常の汚れを神に託して持ち去ってもらう「神送りの日」(みそぎの日)と言われてきました。

この日本古来の神事が中国から伝わった牽牛・織女の伝説と結びつき、その上に、何かものごとが上手になることを願う「乞巧奠」(きっこうでん)という行事がさらに結びついて、現在の「七夕祭り」ができあがったのです。

☆ ☆ ☆

ものごとを調べてみると、何が真実で、自分は何を信じたらよいかを自ら問いかける場面に何度も直面します。その時、「答えはただ一つではない」ということを、多くの人は実感することでしょう。

価値の多様化の時代を迎え、これからの教育の在り方が今や大いに問われています。